

■現在の経済と社会を支配しているのはプラットフォーム資本でありレント資本である

「生産」と「再生産」をめぐる闘いの統合こそレント資本の支配を掘り崩す

2026年6月26日

阿部治正

1. 私たちの生活を支配しはじめた巨大プラットフォーム

いま、私たちの生活は、Google、Amazon、Apple、Meta、Microsoft、X、TikTokなどの巨大IT企業なしには成り立ちにくくなっています。

調べ物をするときは検索サイトを使います。買い物はネット通販で済ませます。友人との連絡はSNSやメッセージアプリで行います。動画を見たり、音楽を聴いたり、ニュースを読んだりするのも、多くの場合、巨大なプラットフォームを通して行われています。

つまり、これらの企業は、単に便利なサービスを提供しているだけではありません。私たちが情報を得る道、物を買う道、人とつながる道、社会に参加する道そのものを握り始めているのです。

このような企業を「プラットフォーム資本」と呼ぶことができます。

プラットフォームとは、人々が集まって活動する「場」のことです。たとえば、駅、商店街、市場、学校、広場のようなものを思い浮かべると分かりやすいでしょう。ただし、現代のプラットフォームは、インターネット上にあります。

そこでは、人々が情報を発信し、商品を買ひ、評価し合い、会話し、学び、働き、時には政治的な意見を表明します。

重要なのは、その「場」に人が集まれば集まるほど、その価値が高まるということです。

利用者がほとんどいないSNSには価値がありません。しかし、多くの人に参加すれば、そこには情報も、人間関係も、取引も、評判も集まります。すると、さらに多くの人がある場所に参加するようになります。

このように、人が集まることで、その場所自体の価値が高まる現象を「ネットワーク効果」と言います。

しかし問題は、その価値を誰が受け取っているのかということです。

SNS の価値は、企業だけが作っているわけではありません。そこに投稿する人、コメントする人、写真や動画を上げる人、友人とやり取りする人、商品を紹介する人、情報を共有する人、そうした多くの人々の活動によって作られています。

ところが、その場を管理している企業は、広告料、手数料、データ利用などを通じて巨大な利益を得ています。

つまり、多くの人々が作り出した社会的な価値を、プラットフォーム企業が自分たちの利益として取り込んでいるのです。

ここに、現代資本主義の新しい特徴があります。

従来の資本主義では、工場で商品を作り、それを売って利益を得るという形が中心でした。もちろん、いまでも工場生産は重要です。資本主義社会ですから、労働者の労働と資本によるその搾取が社会の基本をなしています。しかし、現代の巨大 IT 企業の行動は、それだけでは説明できません。

彼らは、商品を直接作るだけでなく、人々が活動する「場」を支配することで利益を得ています。

このような資本は、マルクスの考え方に沿えば、「レント資本」として理解することが可能です。

「レント」とは、簡単に言えば、何かを自分で作ることで得る利益ではなく、必要な場所や条件を独占し、そこを使わせることで得る利益のことです。

昔から分かりやすい例は土地です。土地を持っている人は、自分で作物を作らなくても、その土地を他人に貸すことで地代を得ることができます。土地を使いたい人は、土地の所有者にお金を払わなければなりません。

現代のプラットフォーム企業も、これに似ています。

彼らは、現代社会で生きるために必要な「入り口」を握っています。検索の入り口、買い物の入り口、情報発信の入り口、仕事を得る入り口、人とつながる入り口を握っているのです。そして、その入り口を使う人々や企業から、手数料や広告料やデータという形で利益を得ています。

だから、プラットフォーム資本は、現代のレント資本なのです。これは単なる言葉の言い換えではありません。

もちろん、プラットフォーム企業もソフトウェアを開発し、サーバーを運営し、技術者を雇っています。その意味では、彼らも一定の生産活動をしています。しかし、彼らの巨大な利益の中心

は、そこだけにあるのではありません。本当の力は、人々が集まり、交流し、情報を作り、評価し、取引する条件を独占しているところにあります。

つまり、価値そのものを一から作っているというより、価値が生まれる場所を支配し、そこから利用料を取っているのです。現在のレント資本は、生産活動を行う労働者やそれを搾取する資本からばかりでなく、社会のあらゆる場所に様々な形をとって遍在している富を収奪することを通して、莫大な利益を上げているのです。

これが、レント資本の核心です。

2. レント資本は、私たちの社会をどう変えているのか

レント資本の問題は、経済の話だけではありません。それは、私たちの生活、考え方、人間関係、政治、文化にまで深く入り込んでいます。

子どもたちは、スマートフォンやタブレットを通して、動画、SNS、ゲーム、生成 AI が作った情報に日常的に触れながら育っています。若者たちは、SNS で友人とつながり、動画サイトで趣味を楽しみ、検索や AI を使って勉強し、仕事の知識を得ています。最近では、悩み相談や人生相談まで AI にする人もいます。

高齢者も例外ではありません。行政手続き、買い物、銀行、病院予約、交通機関の利用など、多くの場面でデジタルサービスが必要になっています。つまり、プラットフォームは、もはや一部の若者だけのものではありません。社会全体の生活基盤になりつつあります。

企業活動も同じです。小さな店も、ネット通販サイトや予約サイト、地図アプリ、口コミサイト、決済サービスなしには商売が難しくなっています。配送業、飲食業、宿泊業、教育、医療、介護、文化産業など、さまざまな分野がプラットフォームに依存しています。

このことは便利さをもたらしました。しかし同時に、大きな問題も生み出しています。

第一に、私たちの行動がデータとして集められています。何を検索したか。どんな動画を見たか。何を買ったか。どこに行ったか。誰とつながっているか。何に怒り、何に反応し、何を好むのか。こうした情報が、企業に蓄積され、広告や商品販売、政治宣伝、世論操作に利用される可能性があります。

第二に、私たちが何を見るか、何を知るかが、アルゴリズムによって左右されます。アルゴリズムとは、コンピューターが情報を並べたり、おすすめを表示したりする仕組みのことです。私たちは、自分で自由に情報を選んでいるつもりでも、実際には、プラットフォーム企業が作った仕組みによって、見せられる情報をかなり左右されています。

その結果、自分と似た意見ばかりが表示されることがあります。これを「エコーチェンバー」と呼びます。エコーチェンバーとは、同じ意見が反響し合う部屋のようなものです。自分と同じ考えだけに囲まれていると、それが社会全体の常識であるかのように感じてしまいます。

第三に、怒りや不安をあおる情報が広がりやすくなっています。SNS では、冷静で丁寧な議論よりも、短く、強く、刺激的な言葉の方が拡散されやすい傾向があります。フェイクニュースや陰謀論、差別的な言説も、この仕組みの中で広がる可能性があります。

なぜなら、人々の怒りや不安は、クリックや視聴時間を増やすからです。そしてクリックや視聴時間が増えれば、広告収入も増えます。つまり、社会が分断され、人々が不安になり、怒りをぶつけ合うことさえ、プラットフォーム企業の利益につながってしまう場合があるのです。

これは非常に深刻な問題です。

政治も変わり始めています。選挙運動、世論形成、社会運動、デマの拡散、政治家の発信、支持者の動員などが、SNS や動画サイトを通じて行われるようになってきました。その結果、政治の場でも、冷静な議論より、短く強い言葉、敵を作る言葉、怒りをあおる言葉が目立つようになっています。

ここでも、レント資本は単なる経済主体ではありません。それは、社会の情報環境を支配する存在になっています。私たちが何を知るか。何を信じるか。誰とつながるか。何に怒るか。どのように社会を理解するか。そのかなりの部分が、プラットフォームの仕組みに影響されているのです。

だから、レント資本を理解しなければ、現代社会を理解することはできません。これは、単に「IT 企業が大きくなった」という話ではありません。人々の生活、教育、文化、政治、民主主義そのものが、巨大なプラットフォーム企業の支配のもとに置かれ始めているという問題なのです。

3. 「再生産」とは何か——人間が生き続けるための活動

資本主義を考えると、多くの人々は「生産」を思い浮かべます。工場で商品を作る。会社で働く。サービスを提供する。商品を売る。利益を得る。そのことを通して、資本家が労働者を搾取する。

たしかに、これらは資本主義の中心です。しかし、社会は生産だけでは成り立ちません。人間が働くためには、食べなければなりません。休まなければなりません。住む場所が必要です。病気になれば医療が必要です。子どもは育てられ、教育を受けなければなりません。高齢者や障がいのある人にはケアが必要です。人間関係、文化、安心できる暮らしも必要です。

こうした、人間が生き続け、働き続け、次の世代を育て、社会を続けていくための活動を「再生産」と呼びます。少し難しい言葉ですが、簡単に言えば、再生産とは「人間と社会を毎日つくり直すこと」です。

朝起きて、食事をし、学校や職場へ行き、帰って休み、家族や友人と話し、体を回復させ、また明日を迎える。子どもを育てる。学ぶ。病気を治す。介護する。地域で助け合う。文化を受け継ぐ。これらはすべて、社会を続けていくために欠かせない活動です。

マルクスは、資本主義において、労働者の「労働力」が再生産されることが必要だと考えました。労働力とは、人間が働く力のことです。資本家は労働者を雇い、働かせ、商品やサービスを作らせます。しかし、労働者が毎日働くためには、生活し、体力を回復し、家族を維持し、次の世代を育てる必要があります。

ところが、資本主義は、この再生産の多くを家庭や個人の責任に押しつけてきました。企業は、労働者に賃金を払います。しかし、その賃金だけで十分な生活、教育、医療、介護、休息、文化的生活が本当に保障されているとは限りません。むしろ、多くの場合、労働者はぎりぎりの賃金で生活を維持しなければなりません。そして、家庭の中では、家事、育児、介護などの多くが、長い間、女性に無償または低く評価された形で押しつけられてきました。

ここに、資本主義の大きな問題があります。会社での労働だけが社会を支えているわけではありません。家庭や地域でのケア、教育、生活の支えも、社会にとって不可欠です。しかし、それらは「私的なこと」「家庭の問題」とされ、正当に評価されてきませんでした。

フェミニズム経済学は、この点を強く批判してきました。特にシルヴィア・フェデリチなどの思想家は、家事やケアや育児は、単なる家庭内の仕事ではなく、資本主義を支える重要な社会的労働だと主張しました。なぜなら、労働者が毎日働けるのは、誰かが食事を作り、洗濯をし、子どもを育て、病人を看病し、高齢者を介護しているからです。

それにもかかわらず、この労働は無償または低賃金で扱われてきました。つまり、資本主義は、工場や会社で労働者から利益を得るだけでなく、家庭や地域で行われる再生産の労働にも依存してきたのです。

しかも現代では、この再生産の領域にも資本が深く入り込んでいます。教育は塾や受験産業に依存し、医療や介護は市場化され、子育て支援も商品化され、文化や娯楽もプラットフォームを通して提供されるようになっていきます。本来なら、すべての人が安心して生き、学び、育ち、支え合うための領域が、利益を上げるための市場に変えられています。その結果、お金のある人は質の高い教育や医療やケアを受けられる一方で、お金のない人は十分な再生産の条件を得にくくなります。

これは、単なる生活問題ではありません。人間が人間らしく生きるための土台が、資本の利益のために利用されているという問題です。だから、現代の社会運動は、賃金や労働時間だけでなく、教育、医療、介護、子育て、文化、地域、自然環境などの再生産領域を重要な闘いの場として考える必要があります。

社会を支えているのは、生産だけではありません。人間を支え、社会を続ける再生産こそ、資本主義を理解し、変えていくための重要な鍵なのです。

4. 再生産の領域は、なぜ資本との闘いの場になるのか

再生産とは、人間と社会を毎日つくり直す活動です。食事、住まい、休息、医療、介護、子育て、教育、文化、地域のつながり、自然環境。これらがなければ、人間は生きていけません。社会も続いていきません。だから本来、再生産の領域は、人々が共同で支え合うべき公共的な領域です。

しかし資本主義は、この領域をしばしば個人や家庭の責任に押しつけてきました。

「子育ては家庭の責任」。

「介護は家族で何とかするもの」。

「教育は自分でお金を出して受けるもの」。

「病気や老後への備えは自己責任」。

「生活が苦しいのは本人の努力不足」。

このような考え方が広がると、社会全体で支えるべき問題が、個人の問題にされてしまいます。その結果、生活に余裕のある人は何とかできますが、低賃金、不安定雇用、ひとり親世帯、高齢者、障がいのある人、外国人、若者などは、非常に厳しい状況に置かれます。

さらに資本は、この再生産の領域を新たな市場として利用してきました。教育では、塾、予備校、通信教育、受験産業が広がりました。医療や介護では、民間企業の参入が進みました。子育て、保育、家事代行、見守りサービス、メンタルケア、趣味、娯楽、恋愛、結婚、友人関係まで、さまざまなものが商品として売られるようになっていきます。

もちろん、必要なサービスが提供されること自体が悪いわけではありません。問題は、人間が生きるために必要なものが、利益を上げるための商品にされることです。教育を受けるにもお金がかかる。介護を受けるにもお金がかかる。安心して子育てするにもお金がかかる。文化を楽しむにも、休むにも、つながるにも、お金がかかる。そうになると、人間らしい生活そのものが、所得や資産によって大きく左右されます。

ここに、再生産をめぐる不平等があります。また、再生産の現場で働く人々の労働条件も深刻です。保育士、介護職員、看護師、学校職員、相談員、福祉職員など、社会を支える仕事は非常

に重要です。しかし、これらの仕事は、長い間、低賃金、長時間労働、人手不足に苦しめられてきました。

つまり、ケアを受ける側も、ケアを担う側も、十分に大切にされていないのです。これは社会全体にとって大きな危機です。

なぜなら、ケアの質が下がれば、子ども、高齢者、病気の人、障がいのある人、生活に困っている人が直接苦しむからです。そして、その負担は家族や地域にも広がります。再生産の領域が壊れると、社会全体が壊れていきます。

ここに、再生産領域をめぐる闘いの重要性があります。賃金を上げること、労働時間を短くすること、雇用を安定させることはもちろん大切です。しかし、それだけでは十分ではありません。

医療を受けられること。介護を受けられること。子どもを安心して育てられること。教育を受けられること。差別されずに生きられること。地域で孤立しないこと。文化に触れられること。自然環境が守られること。これらも、労働者や市民の生活にとって欠かせない条件です。

だから、再生産の領域は、資本と労働者・市民との重要な闘いの場になります。

しかも現代では、ここにプラットフォーム資本やレント資本が深く入り込んでいます。教育はオンライン教材や学習データと結びつき、医療や介護はデジタル管理と結びつき、子育てや生活支援もアプリやプラットフォームに組み込まれています。人々の悩み、健康状態、学習履歴、購買行動、感情、人間関係までがデータとして集められ、利用されるようになっています。

再生産の領域は、もはや家庭や福祉だけの問題ではありません。それは、データ、AI、広告、金融、保険、教育産業、医療産業、介護産業、プラットフォーム企業が入り込む巨大な市場になっています。

だからこそ、私たちは再生産の領域を、もう一度、人々の手に取り戻す必要があります。教育や医療や介護や子育てを、利益のための商品ではなく、人間が人間らしく生きるための公共的な基盤として再建する必要があります。

再生産を社会の側に取り戻すこと。それは、現代のレント資本主義に対抗するための重要な道なのです。

5. 「再分配・承認・代表」——社会正義を三つの面から考える

再生産をめぐる闘いを考えるとき、ナンシー・フレイザーという思想家の議論はとても重要です。フレイザーは、現代社会の不正義を一つの理由だけで説明することはできないと考えました。

貧困だけを見ても足りません。差別だけを見ても足りません。政治に参加できないことだけを見ても足りません。人々が本当に対等に社会に参加するためには、少なくとも三つの条件が必要だと考えました。

それが「再分配」「承認」「代表」です。

まず「再分配」とは、所得、富、資源、労働条件、社会保障などをどう分けるかという問題です。たとえば、低賃金、不安定雇用、貧困、長時間労働、社会保障の不足、教育費や医療費の負担の重さなどは、再分配の問題です。お金がなければ、十分な教育を受けられない。病院に行くのを我慢する。家賃が払えない。子育てが苦しくなる。将来に希望を持ってない。こうした状態では、人は社会に対等に参加できません。

だから、賃上げ、社会保障の充実、税制改革、公共サービスの拡充、労働条件の改善が必要になります。これは、労働運動や社会保障運動が長く取り組んできた中心的な課題です。

次に「承認」とは、人間として尊重されるかどうかという問題です。どれだけお金があっても、社会の中で差別され、侮辱され、見下され、存在を認められなければ、その人は対等に社会に参加できません。女性差別、人種差別、障がい者差別、外国人差別、性的少数者への差別、貧困者への偏見、ひとり親家庭への偏見などは、承認の問題です。

ここで問題になるのは、ある人々が「普通ではない」「劣っている」「迷惑な存在だ」と見なされることです。このような社会では、人は自分らしく生きることができません。だから、差別をなくすこと、言葉や制度を見直すこと、多様な生き方を尊重すること、社会の中で見えなくされてきた人々の声をきちんと受け止めることが必要になります。

そして三つ目が「代表」です。代表とは、誰が政治や社会の決定に参加できるのか、誰の声が正式な声として扱われるのかという問題です。たとえば、非正規労働者、若者、貧困層、外国人、移民、難民、障がいのある人、子育て中の人、介護をしている人などの声は、政治の場で十分に反映されているでしょうか。

多くの場合、そうではありません。社会のルールは、強い立場の人、発言力のある人、組織された人、資金力のある人の声によって決まりやすくなっています。しかし、そのルールの影響を受けるのは、むしろ声を上げにくい人々です。

フレイザーは、このように、社会の枠組みそのものが一部の人々の声を排除している状態を問題にしました。だから、参政権の拡大、参加型民主主義、地方自治の強化、職場での発言権、国境を越えた民主的な統制などが重要になります。

ここで大切なのは、「再分配」「承認」「代表」は、別々の問題ではないということです。

たとえば、貧困の問題は、単にお金が足りないというだけではありません。貧しい人が「努力していない人」と見下されるなら、それは承認の問題でもあります。さらに、貧しい人の声が政治に届かないなら、それは代表の問題でもあります。

また、差別の問題も、承認だけでは解決できません。差別されている人々が低賃金や不安定雇用に置かれているなら、再分配の問題があります。政治に参加できないなら、代表の問題もあります。

この三つを切り離してしまうと、社会運動は弱くなります。経済的な支援はあるが、尊厳は回復されない。多様性は語られるが、貧困は放置される。社会保障はあるが、誰がその制度を決めるのかは変わらない。こうした不十分な改革にとどまってしまう危険があります。

現代のレント資本主義では、この三つの領域すべてが傷つけられています。再分配の面では、富が巨大企業や富裕層に集中しています。承認の面では、SNS上で差別や攻撃が広がり、人々の尊厳が傷つけられています。代表の面では、プラットフォーム企業が情報の流れを左右しているにもかかわらず、その仕組みを市民が民主的に決めることはできません。

つまり、レント資本は、経済だけでなく、文化や政治にも影響を及ぼしているのです。だから、これに対抗する運動も、賃金や社会保障だけでなく、差別、尊厳、民主主義、発言権、情報環境の問題を結びつける必要があります。

再分配・承認・代表を結びつけること。それが、現代の社会正義を考えるうえで欠かせない視点なのです。

6. なぜ「生産」の現場を忘れてはいけないのか

ここまで、再生産の重要性について見てきました。

教育、医療、介護、子育て、文化、地域、自然環境、情報環境。これらは、人間が生き、社会が続いていくために欠かせないものです。

また、再分配、承認、代表という三つの面から、社会正義を考える必要があることも見てきました。

しかし、ここで忘れてはならないことがあります。それは、「生産」の現場です。

生産とは、商品やサービスを作り出す活動です。工場、建設現場、事務職、物流、販売、医療、介護、教育、IT、農業、公共サービスなど、さまざまな仕事の場で行われています。

資本主義の基本には、労働者が働き、資本が利益を得るという関係があります。労働者は賃金を受け取ります。しかし、労働者が作り出す価値のすべてが賃金として返ってくるわけではありません。労働者が作り出した価値の一部は、企業の利益になります。これが、マルクスが「搾取」と呼んだ問題です。

もちろん、現代の資本主義は、昔の工場中心の資本主義とは大きく変わりました。プラットフォーム、データ、AI、金融、知的財産、広告、ブランドなどが大きな力を持っています。

しかし、それでも労働の現場がなくなったわけではありません。商品を運ぶ人がいます。倉庫で働く人がいます。アプリを作る人がいます。介護する人がいます。学校で教える人がいます。病院で働く人がいます。清掃する人がいます。窓口で対応する人がいます。データを入力する人がいます。配達する人がいます。

どれほど AI やプラットフォームが発達しても、社会は人間の労働なしには成り立ちません。だから、生産の現場での労働条件を改善することは、今でも非常に重要です。賃金を上げること。労働時間を短くすること。非正規雇用を減らすこと。過労をなくすこと。安全な職場を作ること。ハラスメントをなくすこと。労働者が職場で発言できるようにすること。

これらは、再生産の改善にも直結しています。なぜなら、長時間労働で疲れ切っていれば、家族と過ごす時間も、地域に参加する時間も、学ぶ時間も、休む時間も失われるからです。低賃金であれば、十分な食事、住まい、教育、医療、文化にアクセスすることが難しくなります。不安定雇用であれば、将来の見通しを持ちにくくなり、結婚、子育て、介護、地域生活にも影響します。

つまり、生産の場での搾取は、再生産の場での苦しみとして現れるのです。だから、再生産を守るためにも、生産の現場での闘いが必要です。

さらに重要なのは、労働者が単に賃金を上げるだけでなく、生産の目的や方法に関与することです。何を作るのか。どのように作るのか。誰のために作るのか。環境を壊していないか。人を傷つける商品を作っていないか。社会に必要なものを作っているのか。こうした問題に、労働者や市民が関与する必要があります。

現在の企業では、基本的に所有者である株主や経営者が大きな決定権を持っています。労働者は、実際に仕事をしているにもかかわらず、企業の根本的な決定にはあまり関与できません。

しかし、本当に社会を変えるためには、労働者が生産の現場で力を持つ必要があります。職場で団結し、労働組合を作り、交渉し、発言し、経営への参加を求めること。さらに進んで、働く人々自身が、生産のあり方をコントロールする力を高めていくこと。これが重要です。

再生産の社会的な取り戻しと、生産の民主的なコントロールは、別々の課題ではありません。教育や医療や介護を守るためには、そこで働く人々の労働条件を改善しなければなりません。環境を守るためには、生産の目的や方法を変えなければなりません。生活を守るためには、賃金、労働時間、雇用、職場の権利を改善しなければなりません。だから、現代の運動は、生産と再生産を結びつける必要があります。

「職場の問題」と「生活の問題」を分けて考えてはいけません。働き方が壊れれば、生活が壊れます。生活が壊れれば、働く力も失われます。生産と再生産は、一つの社会の中で深く結びついているのです。

レント資本主義に対抗するためには、この二つを統一して考える必要があります。職場での搾取に反対する闘い。教育、医療、介護、子育て、文化、地域、自然環境を守る闘い。情報とデータとプラットフォームを民主的に管理する闘い。これらを結びつけることが、これからの労働運動、市民運動、社会運動に求められています。

7. レント資本にどう対抗するか——生産と再生産を取り戻す

現代の資本主義では、巨大なプラットフォーム企業が、私たちの生活や社会の重要な入り口を握っています。検索、SNS、ネット通販、動画配信、アプリ、広告、決済、クラウド、AI。これらは、もはや単なる便利なサービスではありません。社会そのものを動かす基盤になっています。そして、そこに人々が集まり、情報を発信し、交流し、働き、学び、買い物をし、政治的意見を表明することで、大きな価値が生まれています。しかし、その価値の多くは、プラットフォームを所有する巨大企業に吸い上げられています。

これが、レント資本主義の基本的な仕組みです。レント資本は、価値を直接作るというより、価値が生まれる場所や条件を独占し、そこへのアクセスを支配することで利益を得ます。

この支配は、経済だけにとどまりません。情報、文化、教育、医療、介護、子育て、政治、民主主義、人間関係、感情、悩み、怒り、希望にまで及んでいます。

だから、私たちはこの問題に対して、単に「便利なサービスを使うか使わないか」というレベルで考えるだけでは不十分です。社会全体の問題として考えなければなりません。

では、どう対抗すればよいのでしょうか。

第一に、データやプラットフォームを公共的なものとして取り戻す必要があります。私たちの行動データ、学習データ、医療データ、購買データ、移動データ、人間関係のデータは、巨大企業が勝手に利用してよいものではありません。それは、人々の生活から生まれた社会的な情報です。したがって、データの利用には厳しいルールが必要です。個人情報を守ることはもちろん、企業がデータを独占して利益を上げる仕組みを見直す必要があります。また、公共的なデジタル基盤や、非営利のオープンプラットフォームを育てることも重要です。

第二に、教育、医療、介護、子育て、文化などの再生産領域を、商品化から守る必要があります。人間が生きるために必要なものを、すべて市場に任せてはいけません。お金がある人だけが良い教育を受けられる。お金がある人だけが良い医療や介護を受けられる。お金がある人だけが安心して子育てできる。そのような社会は、公正な社会ではありません。教育、医療、介護、保育、住宅、文化、自然環境は、公共的な基盤として保障されるべきです。

第三に、レント資本に対する課税と規制が必要です。巨大プラットフォーム企業は、社会全体が作り出した価値を利用して、莫大な利益を得ています。であるならば、その利益の一部は、社会に返されるべきです。独占的な利益に対する課税、データ利用への規制、アルゴリズムの透明化、労働者保護、消費者保護、公正な取引ルールが必要です。また、プラットフォーム上で働く人々、たとえば配達員、フリーランス、ギグワーカー、クリエイターなどの権利を守ることも重要です。彼らは「自由に働いている」と言われることがありますが、実際にはプラットフォームの評価制度や報酬制度に強く支配されています。見えにくい形の労働支配を明らかにし、労働者としての権利を保障する必要があります。

第四に、これらすべての土台として、生産の場での労働者の力を強める必要があります。賃金を上げる。労働時間を短くする。非正規雇用を減らす。職場での発言権を強める。労働組合を広げる。経営に対する労働者の関与を強める。これらは古い課題ではありません。むしろ、レント資本主義の時代だからこそ、ますます重要になっています。

なぜなら、労働者の力が弱いままでは、どれほど再生産の重要性を訴えても、それを実現する社会的な力が生まれませんからです。生産の場で労働者が力を持ち、再生産の場で市民が公共性を取り戻し、情報とデータの領域で民主的な管理を求める。この三つを結びつけることが必要です。

言い換えれば、これからの運動は、職場だけの運動でも、福祉だけの運動でも、差別反対だけの運動でも、環境だけの運動でも不十分です。それらをバラバラにするのではなく、結びつける必要があります。賃金と生活。労働とケア。教育と民主主義。データと人権。環境と生産。地域と公共性。これらを一つの大きな社会変革の方向に結びつけることが重要です。

レント資本主義は、人々の協働、知識、文化、生活、感情、データ、再生産を囲い込み、そこから利益を得ています。だからこそ、私たちはその逆の方向をめざす必要があります。人々の協働を

公共的なものとして取り戻すこと。教育、医療、介護、子育て、文化を市場任せにしないこと。データとプラットフォームを民主的に管理すること。職場で労働者の力を強めること。社会を支える活動を、利益のためではなく、人間の生活と尊厳のために組み直すこと。

これが、レント資本に対抗する基本方向です。現代の資本主義は、私たちの生活のすみずみにまで入り込んでいます。だから、それに対抗する運動も、生活のすみずみから始めなければなりません。

働く場から。学ぶ場から。ケアの場から。地域から。ネット空間から。政治の場から。そして、それらをつなぐ新しい連帯を作ること。それこそが、レント資本主義の支配を掘り崩し、人間らしい社会を取り戻すための道なのです。